

口頭発表「園児のみなさん、ようこそー小動物ランドへ」

志村光太郎 内海萌枝 田島奈央 福嶋誠 三品佳子 押本純樹



1 はじめに

昨年度から2年間、都教委から小学校動物飼育推進校の指定を受けた。また、今年度からは、同じく都教委から持続可能な社会づくりに向けた教育推進校の指定を受けた。「SDGs15 陸の豊かさを守ろう」の視点から飼育動物を生かした授業研究に取り組んでいる。その中の4年総合的な学習の時間「園児のみなさん、ようこそー小動物ランドへ」を紹介する。

2 セラピーアニマルたち

(1) 山羊

ラッキーとココアの2頭がいる。飼育担当は4年生。東京農工大学から借りている。校長室前の飼育小屋で世話をし、日中は小屋の外に出し、リードに繋がれている。在校2年。

(2) 烏骨鶏

ぴーちゃん、もぐちゃん、みるくの3羽がいる。飼育担当は3年生。青梅畜産セン

ターで譲り受ける。日中は屋外の柵内に放し、夜はケージに入れ、職員玄関に置く。在校2年。

(3) ウサギ

マロンが1羽。飼育担当は飼育委員会。売れ残ったウサギを無料でもらう。日中は職員玄関前に柵を立て放し、夜はケージに入れ、職員玄関に置く。冬は職員室。在校7年。

(4) 文鳥

文ちゃん1羽。飼育担当は希望者。副校長が愛鳥家から譲り受ける。鳥籠に入れ、職員玄関に置く。冬は職員室に入れる。在校2年。

3 授業内容

(1) 何ができるか考えよう

新1年生が動物たちを怖がっていることを知り、来年の1年生が安心して登校できるようにするにはどうしたらいいのか考える。みんなに愛されるにはどうしたらいいのか、それぞれの思いや考えをカードに書き出し、やりたいことをクラスみんなでまとめていった。いっしょに散歩をしよう、餌やり体験をさせてあげよう、烏骨鶏を抱かせてあげたいといった声が上がった。

(2) 動物や役割を決め、グループで発表しよう

園児たちに分かるような楽しい発表にする。「動物大すきえんじをふやそうプロジェクト」と称し、グループ活動に取り組む。ふれあい体験はもちろん、劇やクイズ、写真や模型などを使って各グループが発表を工夫した。交流記念として園児にプレゼントを作成するなど、子供らしいアイデアも見られた。

日程を決めるため、代表児童が保育園担当者に電話を入れる活動も取り入れた。園では烏骨鶏の飼育を始めようとしていたと

ころなので、その後、園児が学習依頼に来校した。

(3) 専門家からの話を聞こう

園児との動物交流会を前に専門家、東京農工大学農学部教授 渡辺 元先生からの話を聞く。実際に山羊を目の前にして、基

(4) 園児のみなさん、ようこそ小動物ランドへ

7月8日(月) 4年2組が中藤保育園

本的な体のつくりや餌のあげ方の指導を受ける。餌は小さくちぎり、掌に乗せてあげると、山羊も食べやすく、触れ合うこともできることを教わる。質問にも答えてもらい、発表に向けて児童は、自信をもつことができた。

と、7月10日(水) 4年1組がまどか保育園と飼育動物を通して、交流学习を行う。

①オープニングセレモニー

4年生が園児を出迎え、開会式を行う。司会進行は4年生が行う。



園児の皆さん、ようこそ、第一小学校へ



動物交流会、よろしくお願いします。

②ポスターセッション

4年生は山羊・鳥骨鶏・ウサギグループに分かれ、園児に向けて発表をする。



〇×クイズでラッキーを紹介します。



ペープサートでココア物語の始まりです。



劇を発表，マロンにやさしくしてね。



分かるかな，大きな声で正解を説明します。



スタンプラリー形式で発表を聞きました。

③ふれあいタイム

4年生が園児に触らせたり，抱っこさせたり，散歩させたりして動物と触れ合う。



桜の木の下は自慢の動物ランドです。



思ったより山羊の力は強いぞ。



大丈夫だよ，そっと抱いてみてごらん。



餌を掌に乗せてあげてみよう。

※文鳥は直接触れ合うことができないので、今回は取り上げなかった。

(5) 感想

① 4年生

- ・ 保育園のみんなが動物を知ってくれるように、動物が大好きになってくれるように、がんばりました。私たちが考えたことを一生懸命聞いてくれて、うれしかったです。動物に触る時にも、みんながやさしく動物に触ってくれて、劇などをしっかりと聞いてくれたんだなと思いました。
- ・ ぼくのグループのところでは、園児たちに分かるように物語で教えました。ぼくが全力でがんばったので、その気持ちが伝わったのか、園児たちに分かってもらえて、うれしいです。目標達成で、園児たちが山羊を気に入ってくれて、すごくうれしいです。これからも山羊のことを教えていきたいです。
- ・ 保育園のバラ組さんたちが楽しめて、来年1年生になるときに怖がらないようにするためだから、やって良かったと思いました。これからも動物をかわいがってあげたいと思いました。
- ・ ふれあいタイムになりました。ココアの場所にたくさん来てくれました。保育園の子のために餌をもってきました。みんながあげてくれたのですが、一人の女の子が怖いと言っていたので、私とっしょにあげました。そうすると、ココアは食べてくれて、その子が喜んでくれました。そういうこと



慣れてきたぞ、角を触ってみよう。

が本当の動物ハッピーだと思いました。

② 4年担任

- ・ 自分たちが実際の飼育経験から学んだことを園児に伝えたことで、児童たちも飼育することに自信や幸せを感じることができた。「私も前より動物が好きになった！」という児童も見られ、とても嬉しく感じた。また、発表を聞いた園児たちも安心して、楽しそうに動物に触れることができ、とても充実した時間を過ごすことができた。
- ・ 学習した内容をただ伝えるのではなく「動物好きの保育園児を増やす」という明確な目的があったため、児童が自主的に学習活動に取り組んだ。また園児に伝えるために、動物をより詳しく観察したり触れ合ったりしようとしている4年生の姿があった。今回の交流会は、園児はもちろん、4年生も動物について考える良い機会だった。

③ 園長・保育士

- ・ 園児たちが動物と直接触れ合えて良かった。動物への親しみは、自分が通う小学校への親しみにもつながる。やさしく4年生たちが分かりやすく教えてくれたので、園児たちは安心感をもった。有効な保育園と小学校の連携である。卒園児の成長も見られて良かった。
- ・ 本園では第一小学校の動物飼育の効果

を知り、今月7月から烏骨鶏を飼うことにしたので、とても有意義な時間だった。園児にとって興味のあること、分からないことが知れてとても良かった。動物との触れ合いも大人ではなく年齢が近い4年生から教わることで、自分でもできるかもしれないと園児が意欲的だった。

4 終わりに

動物飼育推進校をきっかけに昨年度から山羊と烏骨鶏の飼育活動に取り組み、今年度は総合的な学習の時間に学習として取り入れた。単に調べたことを発表するのではなく、園児に伝える、しかも来年1年生になったとき、怖がらないように動物を紹介するという明確なめあてをもった発表である。児童が学習に意欲的に取り組む姿が見られた。

そこには飼育動物の魅力があった。触れる、抱っこできる、温もりが感じられる、餌やりが体験できる、攻撃をしてくれない安心感、生き物の不思議さ、人間との相違点や共通点など、山羊と烏骨鶏は、児童や園児を引き付け、心温まる交流学习ができた。

来年度以降もこのような活動を継続し、改善点は改善し、より良いものにしていきたい。しかし、大きな課題がある。日常の飼育活動である。地道な取り組みではあるが、生き物が相手である。休日といっても怠ることはできない。幸い、職員や保護者・地域の協力の下、滞りなく行えてはいるが、対応に苦慮する面もある。教員の異動等で現在の体制と心意気が維持できないときは、判断が迫られる。

武蔵村山第一小学校